



## 挑戦する企業をサポートするために入会 (「ビジネスPRツール制作」を通じて)

はじめまして。本年9月より、一般財団法人ベンチャーエンタープライズセンター(VEC)関西支部様へ入会させて頂きました、DRI株式会社の前田と申します。この度は、自身を紹介する機会を与えて頂き、心より感謝申し上げます。

私がこの度、VECに入会したキッカケは、約7年前に大病を経験した事にまで遡ります。退院後、身体をセーブしながら、リハビリを兼ねて仕事に復帰していましたが、一定期間を経過する事が出来た暁には、企業様のビジネス向上をアシストする業務に移行出来ればと考え、30年以上のデザイン&PRツール制作実績をベースに、「企業価値向上のためのビジネスPRツール創造」を人生テーマとして現在、企業WEBサイトや映像等のビジネスPRツール制作に、日々取り組んでいます。ニュースレター「VECてんこもり」を拝読されている読者の方々は、起業シングルマザー様や支援団体、中小企業・経営者様や大学等が読者様とお聞きいたしております。本稿では、その様な方々に私の実体験を通じて、少しでもお役に立てる内容をシェア出来ればと思います。それは業種を問わず、社歴の浅いベンチャー企業はもちろん、古い販促ツールを使い続けている企業様ほど、営業ツールをしっかりと整備する必要があると言う事でした。

その理由は、しっかりとした営業ツールが有る事で、対外的な信用が高まり、その結果、大小拘わらず多数の企業様が業績向上を図る事が出来た実体験をしている事です。例えば、WEBサイト等で企業の「見せ方」を変える。それと同時に事業パンフレット等の販促ツールを変え「企業イメージを良くする」だけで有益なオファーの増加や案件受注に繋がり、業績が向上した事例を、これまで多数拝見しています。

これから起業や新規創業、ベンチャービジネスを行う際、「理念」や「想い」はとても大切な要素と言えるのですが、スタートアップはもちろん社歴や実績が乏しい場合、本気で事業を成功をさせるには、まずは営業先に「信用できる会社」として認知して頂ける様、WEBサイトや事業パンフレット、そして名刺・封筒等「見せるツール」に、最優先で改善に取り組む必要があると言えます。

最後になりますが、私はVECへの入会をキッカケに、ビジネスPRツールの制作を通じて、新産業やベンチャービジネス、イノベーション・テクノロジーを有する既存企業様の再ブランド構築をして参りたいと考えております。皆様、ご指導賜ります様、宜しくお願い申し上げます。



DRI株式会社  
代表取締役 前田 茂



## 沖縄実証実験支援プラットフォームのご紹介

ハイサイ、沖縄県大阪事務所の大濱と申します。令和4年4月に大阪事務所に着任し、はや2年半が経ちました。

大阪は、冬は当然沖縄より寒く、夏は沖縄よりも暑いです。年間通しての寒暖差はもちろん、春・秋の1日の気温格差にも大変な思いをさせられますが、大阪の方の温かさや、美味しいご飯と酒が安くいただけることから、日々楽しく過ごしております。

さて、標題のとおり、「沖縄実証実験支援プラットフォーム」についてご紹介いたします。

沖縄県は、本土復帰50周年を迎えた令和4年5月15日に、「新・沖縄21世紀ビジョン基本計画」を策定しました。この計画は、これまで50年間の沖縄振興の成果と課題等を踏まえ、沖縄県の自主性と主体性のもと、沖縄県の優位性や発展可能性を存分に引き出すことで、「沖縄21世紀ビジョン」に掲げる県民全体で共有する沖縄の将来像の実現と固有課題の解決を図り、本県の自律的発展と県民一人ひとりが豊かさを実感できる社会の実現を目標としております。先に述べたとおり、当計画には沖縄県の多くの固有課題が盛り込まれており、沖縄県大阪事務所では、この課題の解決を一緒にやってくれる、また当該課題の解決をとおしてビジネス拡大を目指す企業さまを広く募集しております。それを推進するために、沖縄県では令和5年11月から「沖縄実証実験支援プラットフォーム」と題して、沖縄を「実証実験の場」として提供し、沖縄での実証実験をとおして、ビジネスの実現に向けた取り組みを推進しております。

なぜ沖縄で実証実験なのでしょう。まずは前段で述べたとおり、沖縄には固有の課題が多くあります。例えば火力発電への依存度が高いことによるCO2排出量が多いこと、観光客の急激な増加によるゴミ処理問題など、地域に負担を与えるオーバーツーリズム、実は失われつつある健康長寿など、さまざまな課題があります。このような課題に対応する技術やサービスの実証なども可能なエリアとなっております。また、沖縄は人口約146万人と、日本の人口1.2億人に対して約1%です。ビジネスにおける最初のテストマーケティングとしては最適な規模感と考えられます。また、沖縄県は国家戦略特区にも指定されており、これまで幾つかの規制緩和を進めてきたところです。当該特区を活用した規制緩和のアイデアの実現の可能性もあります。さらに、台風の常襲地域であることや、UVインデックス(紫外線による影響を示す指標)は全国トップクラスの高さなど、自然環境も厳しい環境になります。このような環境から、沖縄は、環境・エネルギー・ヘルステックなどの実証実験の場として最適なエリアといえます。この課題が山積みの、言い換えますと良い材料が豊富な沖縄で、皆様の技術やアイデアの実証実験をやってみませんか。沖縄県は皆様の沖縄での実証実験から始まるビジネス拡大を心から応援しております。ご興味ございます方は、沖縄県大阪事務所へご連絡ください。

大阪府大阪市北区梅田1-1-3 大阪駅前第3ビル21階 沖縄県大阪事務所 担当 大濱(おおはま)・木村(きむら)  
TEL: 06-6442-3687 E-mail: oohamaka@pref.okinawa.lg.jp

## 「エンタビ®が、日本丸ごとテーマパークにするその日まで」

こんにちは、LED関西10期ファイナリストとして、交流会にて発表をお聞き頂きましたプレイング株式会社 山本ちふみです。改めまして皆様、先日の交流会では沢山のお声がけ、本当にありがとうございました！

「エンタビ®面白い!」「新しいサービスだ!」「良く思いついたねえ」

そんなお声を沢山顶戴し、本当に励みになりました、心から嬉しかったです。

全国に11万以上ある「観光施設」を舞台に、地元ならではの物語を、地元の人達に演じてもらう「観光客参加型 演劇観光案内 エンタビ®」は、私達が日本中を旅する際に、より驚きと感動を用意して全国の地方が待っている、そんな観光大国を創って参ります。日本経済の柱となる「旅行観光業界」は宿泊移動だけでなく、お土産や食事、ディステイニーキャンペーンなど様々な波及効果があります。人口が減少し、地方の急速な過疎化がはじまっている日本で、小さくとも、沢山の観光客が訪れ、地元経済を豊かにする観光事業が切望されています。

そんな中、エンタビ®は各地の観光施設を、全国各地の地元の良さや歴史、そして日本の文化芸術、伝統を後世に伝える、驚きと感動のアトラクションに変えてしまいます。各地ごとに色が違う、彩とりどりのエンタビ®が観光客を待ち構えている魅力的な日本丸ごとテーマパークになる日を目指し、これからも切磋琢磨して参ります。是非、エンタビ®についてお伝えできる場があれば、全国どこへでもお呼びください！

皆様のふるさとや会社、パーティ等でエンタビ®をやらせてください!また開催しているエンタビ®にもぜひいらしてください!

～次回エンタビ®開催～

- ・2024/12/1 兵庫県立兵庫津ミュージアム
- ・2025/1/19 神戸防災のつどい (予定)
- ・2025/2/1 兵庫県立兵庫津ミュージアム
- ・2025/3/16 堺市立さかい利晶の杜

詳しくは【エンタビ】🔍でご検索ください。



プレイング株式会社 代表取締役 山本知史

## 「おかん」が「DX」に取り組む理由

中年女性が中小企業のDXのサポートをするサービス、名付けて「おかんDX」という事業を今年からスタートさせました戸田和子と申します。7月の交流会に登壇させていただいたことに加え、今回機関紙への寄稿の機会もいただき、本当にありがとうございます。

私は大阪市在住の49歳。大学卒業後は正社員として法人営業などに従事しましたが、家事育児と両立できず8年前に退職。その後は専業主婦、パート、フリーランスとして過ごしてきました。もっと仕事の幅を広げたいと思いデジタル分野のリスキリング(=学び直し)をしてAIやデータ活用などのスキルを身につけました。ですが、社会人としてのブランクや年齢、IT分野未経験のためか、望む再就職先を見つけることができませんでした。

一方で、日本の中小企業においてはデジタル化が遅れています。人手不足もあり、非効率な業務を見直す必要性を感じている企業は多数あります。そこで、私のように、育児や介護で一旦キャリアトラックを離れた人がデジタル分野のリスキリングをし、DXが進まない中小企業をサポートすれば、中小企業のデジタル化と女性活躍推進の両方が進み一石二鳥なのではないか、と考えました。そのアイデアをビジネスモデルとしてLED関西に応募したところ登壇の機会をいただき、そこで得たご縁で今は数社の企業様のDX推進サポートをしています。

実際に企業様を訪問すると「まず何から始めたら?」「色々便利なものがあるはずだけど、どれが一番良いの?」というお声が多いです。DX:デジタル・トランスフォーメーションとは「データやデジタル技術を活用して、既存のビジネスモデルや社風・文化に変革を起こすこと」を意味しますが、そもそもデータがなく、KKD(勘・経験・度胸)で仕事をしているところも。「変わること」への不安があり、「どうなりたいか」というビジョン自体がないところでは、「デジタル」の前に「トランスフォーメーション=変革」へのマインドセットの切り替えについて考えることも重要です。

私は「デジタル」の分野では経験も少なく「バリバリのIT人材」ではありません。ですが、それぞれの企業様が必要な「トランスフォーメーション」を一緒に模索し、必要なデジタル技術にお繋ぎすることはできます。ITの専門家とアナログな企業の橋渡しをするいわば「DXトランスレーター」として「オカン」ならではのおせっかい力を発揮し、IT分野に多い「カタカナの専門用語ばかりのシュツとした人」ではない相手の目線に合わせたコミュニケーションができるところが強みと考えています。

昭和でアナログ、そして人手不足で「オカン」の手も借りたい企業様、また「もう一度社会に出て人の役に立ちたい!」と考えている離職中の「オカン」がいらっしゃいましたら、ぜひお気軽にお問い合わせください。



「おかんDX」戸田和子(法人設立準備中) kazzz-t@codeforokan.com 090-9092-8854

〈VEC関西支部だより〉

今年ももうあと1か月ちょっととなりますが、引き続き末永くVECを宜しくお願い申し上げます。(一財)VEC関西支部長 山脇 雅則

一般財団法人 ベンチャーエンタープライズセンター関西支部  
〒541-0053 大阪市中央区本町2-3-6 本町ビジネスビル9階  
TEL 06-6263-0366 FAX 06-4964-6293 Eメール shib88@vec.or.jp